

令和8年度 第1回 小諸市健康づくり推進協議会 次第

(開催結果報告書)

日時:令和8年7月28日(火)午後7時～9時

場所:小諸市役所 第1.2会議室

1 開 会

2 委嘱書交付

3 市長挨拶（市長公務のため柳澤副市長より挨拶）

本協議会は市民の総合的な健康づくりの推進役として、第一線で活躍されている方々が一同に会する場であり、それぞれの立場から意見や提案をいただける貴重な機会である。小諸市では自分らしくいられる、住み続けたいまちをビジョンとして掲げており、健康福祉の分野においては一人一人が健康を心がけ、支え合うまちをめざし様々な施策を推進している。本市の保健事業について忌憚のない意見を頂戴したい。

4 委員、事務局の紹介

5 協議会についての説明

6 会長、副会長の選出

7 会長、副会長挨拶

会長:住民の人口構成の高齢化が進み、少子化対策も健康づくりの一環として取り組んでいる。任期の2年間で多岐にわたるテーマを語り尽くせるかどうかはわからないが、一緒に取り組んでいきたい。

副会長:これからの健康づくりは市民に事業をアピールをしていく、知識を持っていたくような流れになると思う。小諸市民の健康に対しての意識向上に向けて一緒に頑張りたい。

8 協議事項

(1)令和7年度保健事業実績報告について

○質疑1:

- げんき小諸 21 の P34 より、人口減少の予測について、2025 年には人口が4万人を下回ると予測しているが、2026 年 7 月現在の人口は約4万人である。何か具体的な人口政策によって予測よりも人口減少が少なくなったのか、分析

を教えてください。

⇒市の取り組みもあるが、社会増が要因にあると考える。これからは自然増も目指していきたい。

- 2040年・2050年の推計人口よりも人口減少は進まないといった見込みはあるのか。

⇒現時点では回答することが難しい。

○質疑2:

- P47 がん共生事業として、受動喫煙についてはチラシを配布している。切れ目のない健康づくり政策の一連の事業として、学校教育課と協力して取り組んでもらいたい。市内小・中・高校の生徒と親を対象にして講演をして啓発を行うのはどうか。げんきこもろ 21P130 には、将来的な喫煙を予防するとの記載がある。未成年者に対する喫煙防止・薬物乱用に対する具体的な事業について今後の方向性を聞きたい。

⇒チラシはなるべく生徒から保護者の方に渡るように配布している。親が喫煙をしている子どもは、喫煙をし始める年が早いというデータがある。養護の先生を含めながらどう取り組むのか考えていきたい。

- 学校ではどのような取り組みをしているのか教えてください。

⇒毎年喫煙予防講演会を開催している。今年は保護者(PTA)も10名ほど参加している。保護者からは、講演会で話を聞いて良かったとの感想をいただいた。

学校としては講演会に親が参加することを勧めるのは可能だと考えている。

意見:

・医師だけの啓発では足りないと感じる。また、講演会に来てくれる親については心配ないと思うが、そうでない家庭が心配である。学校教育の問題も関わっているため、学校と連携し議論をしていく必要がある。講演会で喫煙や、オーバードーズに問題を絞るのであれば、推進協議会に出席していない他の医師にも協力を仰ぎたい。

○質疑3:

- P46 重症化予防事業について、保健指導・受診勧奨実施者102名に対して、実際に受診した方が49名であるが、受診者が少ない理由を教えてください。

⇒保健指導について、「家族に看護師や栄養士がいるから自分には必要がない」「受診は必要ない」と拒否される方がいるのが現状である。

○質疑4:

- P48 てくてく小諸人について、せっかく健康づくりをやっているのに参加者が少ない理由について、アピールの仕方が悪かったなど原因がわかれば教えてください。

⇒昨年については雨の影響があり参加者が集まらなかったこと、クマの影響もありウォーキングを控えていることが要因にあると考える。また、広報に関しても課題があったため、今年は前年度よりも周知に力を入れている。

○質疑5:

- 特定健診の指導について、後期高齢者対象者は入っていないデータになるのか。

⇒全て特定健診対象のデータになっている。

意見:

- ・特定健診を今まで受けていた人が後期高齢者に移行している。特定健診受診率が下がり、後期高齢者の受診率が上がったことについては、人口構成の変化が反映されている。少し前まで現役であった特定健診の方は意識が高い人たちが多。指導を受ける気持ちの方もいれば、最近では情報を自分で集めている方もいる。指導を受けて「知っている」と感じる方も多いと思う。心配でどうすればよいのか感じるようになるのは、後期高齢者になってからだと思う。今後どのように特定健診事業を進めていくのか行政として考え直す時期に入っていると思う。

○質疑6:

- P26 ドカンショで健(検)診啓発とはどのようなことをしているのか。

⇒保健推進員がドカンショの踊りに参加し、チラシを配布しながら健診啓発をしている。

○質疑7:

- P43 成人歯科相談はどのような内容なのか。

⇒歯のおたずねというアンケートを取っている。歯磨きの回数や定期検診を受診しているのか確認し、パンフレットを渡しながらか相談にのっている。

○質疑8:

- がん検診集計のところについて、未把握と未受診について、国が定義している用語どおりに統計を取っているのか。

⇒現在精検書は、医療機関から市に戻る仕組みになっている。精検書が戻ってこない方に対しては、電話をして受診勧奨・確認をしている。未受診のみの欄になっているがん検診は、未把握はいない。

- 小諸市は未把握が少ない理由については、追跡を確実にしているからなのか。

⇒精検書の返却がない場合は、電話入れを行っている。問診記入の際にも繋がる電話で記載するようにお願いしている。

○質疑9:

- マイナンバーと関連させ健診の情報を紐付け、検査データを共有するような流れは将来的に考えているのか。

⇒現在は委託会社に検診結果データ作成を依頼し、市にデータが提供される仕組みになっている。

意見:

- ・がん登録のデータをマイナンバーに連携させるのは難しいと感じる。
- ・市は統計など手作業でやっているため、もう少し効率的にデータを収集するようにできないのかと思っている。

事務局より P43 の成人歯科相談の数値の訂正。

○質疑 10:

- 母子事業について、妊娠から出産に関する環境は良くなっているのか。
- ⇒後で、産後ケア事業についての説明もするが、手厚い支援になってきていると思う。
- 出産するとなると限られた医院になってくるが、良い出産環境が提供されているという解釈をしてよいか。
- ⇒出産予定医院を選択しやすい市である。こもろ医療センターとは母の不安を共有するなどの連携をしている。金銭で困っている人も受け入れてくれている。花岡レディースクリニックとも 4 ヶ月に 1 回連携会議をしている。

○質疑 11:

- 性教育について、子宮頸がんワクチンについては扱っていないのか。
- ⇒性教育(エイズ教育)は国保の補助金に絡めてやっているが、内容としてはエイズに限定せず幅広くやっている。
- 子宮頸がんワクチンの適応が男子にも広がっている。学校で啓発すれば受診率も上がるのではないかな。
- ⇒学校で接種を推奨をすることは難しい。家庭によって考えがある。熱心に考える家庭からは、「受けたよ」と聞くことはある。

意見:

- ・養護教諭からは言いづらいかもしれないが、学校医からの啓発は可能だと思う。ワクチンによって子宮頸がんを減らせるため、接種を進めていくべきだろうと思う。

意見:

- ・学校教育の中で話せるのは、国が定めている子宮頸がん検診を 20 歳から受診するように勧奨することだと思う。それまでにできることを学校で伝えることは重要ではないか。健康づくり課と学校教育課で連携をすることが重要だと思う。

(2)令和8年度保健事業について

①令和8年度重喫煙者に対する低線量 CT による肺がん検診実証事業について

○質疑 12:

- 禁煙指導を併用しなくてはいけないことがマニュアルに記載がある。市内の禁煙指導が受けられる医療機関を一覧にし提供することが求められている。以前はホームページにリストが載っていたが、現在は無くなっている。小諸北佐久医師会のホームページにも載っていない。周知はどうするのか。
- ⇒現時点でわかっている医療機関を赤ちゃん手帳やホームページで掲載している。
- 実際にできるのか確認を合わせてリストを作成してほしい。

意見:

- ・以前禁煙外来で処方する薬の供給が不足している状況があり、禁煙指導ができない医院があった。昨年以降供給が回復しているため、実施は問題ないと思う。

②特定健診の業務委託について(勧奨通知)

意見:

- ・受診勧奨はとても難しい。医療の PR に長けた民間企業を活用することは一種のアイディアだと思う。

③東海大学の飯綱山公園ポールウォーキングについて

○質疑 13:

- 東海大学にデータは提供しているのか。
- ⇒スポーツ課が主で行っているため、データ提供の有無については確認する。

○質疑 14:

- チラシには運動強度について情報がない。また、作成したコースを実際に市の職員は体験しているのか。
- ⇒昨年に比べるとアップダウンがあり運動強度が高いコースになっている。市の職員が事前に体験しているかについては、スポーツ課に確認が必要。

④女性の健康管理支援アプリ「ルナルナ」を活用した実証事業について

○質疑 15:

- アウトカムはどの指標になっているのか
- ⇒登録率を指標にあげている。アンケート機能や、妊娠報告を用い、必要なデータを取り検証していく。

⑤産後ケアの拡充について

○質疑 16:

- 助産所に通所するのはどのような人なのか。
- ⇒宿泊だと上の子どもがいる母が使いづらいという意見があった。通所や訪問の形で半日利用し、指導を受けながら休むために使っている方が多い。

⑥予防接種について

意見:

- ・ワクチンは輸入品が多いため海外の情勢も深く関係している。

意見:

- ・歯科事業について、幼稚園・小学校の方でもフッ化物洗口を行っている。中学については、一校は許可が得られたがもう一校の許可が得られていない。うがいをする時間が取れない、うがいする場所が難しいと言われたが、市の事業としてどうアプローチをしていくのか。
- ⇒養護教諭の先生を通して依頼している。学校と継続し、ともに解決策を見つけたい。
- ⇒立て替えで仮校舎にすると場所がないなどの問題がある。

- ・週 1 回やれば良いため、前向きに検討してほしい。

意見：

- ・18 歳未満の医療費は 500 円だが、お子さんが多い家庭には 500 円も厳しい。他の市では無料のところがあるため、財源など考えてほしい。

9 閉 会